

## ■ 展示・ワークショップ

鑑賞や体験を通じたさまざまな視点から「居場所とわたし」を見つめる「展示・ワークショップ」。文化施設でのアクセシビリティにかかわる各種の取組事例やアート作品の「展示」、多様な人の参加を促すツールを使った「ワークショップ」、会場の建物解説ツアーなどを行います。

### 展示：「居場所とわたし」

「居場所とわたし」から4名のアーティストが想起した作品を通して、自己と他者との境界の曖昧さ、言語に限定しない他者とのコミュニケーション、社会や世界との関係性について思考をめぐらせます。アートの力を媒介に、アーティストとアート作品がもたらす、物理的な場所にとらわれない居場所の捉え方に出会い、その可能性を考える時間となります。

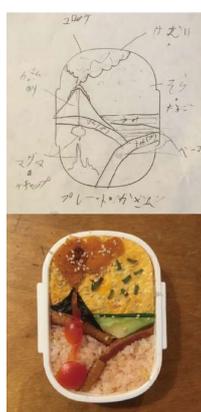


彫刻のつくりかた

撮影：Hayato Wakabayashi

**AKI INOMATA**

(美術家)



お父ちゃん弁当

**小山田 徹**

(芸術家、京都市立芸術大学学長)



看板屋なかざき

撮影：小山田邦哉

**中崎 透**

(美術家)



留め石

撮影：宮島径

©MIYANAGA Aiko, Courtesy of Mizuma Art Gallery

**宮永 愛子**

(美術家)

### 展示：都立文化施設の社会共生の取組

都立文化施設では、だれもが芸術文化にアクセスできる環境づくりの取組を進めています。

美術館や劇場での取組事例の紹介の他、やさしい日本語による施設案内パンフレットや触知図等、実際に現場で活用されている制作物の展示を行います。

### 展示：カームダウンスペースの試み

カームダウンスペースの多様な場面への導入を想定し、そのさまざまなあり方を建築家による研究成果も含めて展示します。仮設や組み立て式の形態、予算といった課題も含め、芸術文化活動において、どのようなスペースが適切なのか、その活用方法とともに考え、共有します。

制作：日本大学 理工学部 建築学科 佐藤慎也 研究室  
協力：綿貫愛子 東京都自閉症協会 役員

### 展示：アクセシビリティ整備に活用できるデバイス

だれもが芸術文化を楽しむためには、障害のある方のみならず、すべての人がストレスなくすごせる環境を整えることが大切です。芸術文化に関する情報へのアクセス、鑑賞、参加といったあらゆる場面で、より多様な人々を受け入れる環境の整備に役立つ、聞こえ方の違いや多言語に対応したデバイスを展示します。

出展例

VUEVO (ビューボ)  
(会話のリアルタイム視覚化デバイス)



ロジャー マイクロホン  
(難聴補助システム)



# ■ ワークショップ

## 触知図をつくるには

10月21日(火) 13:30-14:30 定員：30名/回

実際に触知図を制作している技術者が講師となり、触知図をつくるのに必要な考え方、具体的な情報整理の仕方などについて、実物に触れ、体感しながら考えます。

講師

上野 智義  
(欧文印刷 ドキュメント制作室 シニアチームリーダー)

## 伝わるフォントと文字組を知る

10月22日(水) 13:45-14:45 定員：30名/回

Windowsに標準搭載されているUDフォントの使い方を学びます。情報を文章で表示する際に、文字組みやデザインをどのように工夫すればより多くの人に「伝わる」かたちにできるのか、その使い方を講師や参加者同士の意見交換を交え、実感しながら習得できます。

講師

高田 裕美  
(書体デザイナー)

## 「やさしい日本語」で話す

10月23日(木) 13:00-14:00 定員：30名/回

外国人やこども、高齢者など多様な人へのわかりやすさ、伝わりやすさを高める「やさしい日本語」の導入は、アクセシビリティの向上につながります。このワークショップでは「やさしい日本語」の共通ルールを知り、伝え方の練習をします。相手を思いやり、一人ひとりに合わせて言葉を選択することの必要性を学んでいます。

講師

ひらがなネット



**Creative Well-being Tokyo**

だれもが文化でつながるプロジェクト

## 自由学園明日館 建物解説ツアー

10月21日(火)～23日(木) 各日11:30-12:15 定員：30名/回

明日館館長の解説による明日館建築ツアー。明日館の歴史、フランク・ロイド・ライトの建築の特徴から、維持活用へ向けたバリアフリー改修についてなど、文化財保存と活用の取組の視点でツアーを行いながら、その魅力を解説します。

文化財保存と活用の取組の視点で建物を見つめなおすことで、文化的価値を活かすアクセシビリティのあり方を考える機会とすることを目的にしています。

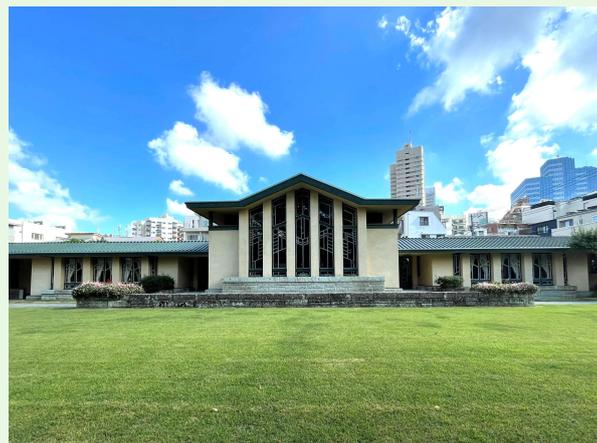
みょうにちかん

### 自由学園 明日館について

明日館は、羽仁もと子・吉一夫妻により自由学園の校舎として建てられました。

フランク・ロイド・ライトとその弟子の遠藤が設計を手掛け、1997年に重要文化財に指定されました。

羽仁夫妻の理念や、当時の女学生たちの生活の軌跡が随所に刻まれた美しいデザインが特徴で、現在は見学やイベント、結婚式など多目的に利用されています。



## ■ テーブルトーク

間近で話を聞きながら登壇者へ質問したり、意見交換ができる「テーブルトーク」を通して、登壇者と参加者がジャンルを越えて交流する「ネットワーキング」。これからの取り組みにつながる関係性を構築したり、事業展開の機運を醸成する出会いの場を創出します。

### 動画における情報保障

10月22日(水) 13:20-14:00



(左)

**二瓶 剛** (ディレクター)

(右)

**平塚 千穂子** (CINEMA Chupki TABATA 代表)

会議やイベントにおける、対面やオンラインによるハイブリッド開催や、アーカイブ動画の配信は、急速に需要が拡大しています。「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー」の「だれもが文化でつながる国際会議2024」のアーカイブを実例に、動画制作の専門家とユニバーサルシアターの創設者が、動画に必要な情報保障について語ります。

### 盲ろうの世界にふれる

10月23日(木) 13:20-14:00



(左)

**田畑 快仁** (京都芸術大学大学院 芸術研究科芸術環境専攻、触覚デザイナー・アーティスト)

(右)

**森 敦史** (筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 研究員)

盲ろう者のコミュニケーション方法は、触手話、点字だけでなく、コンピューターやアプリを使った文字によるコミュニケーションなど多岐にわたり、日常的にさまざまな方法を駆使して生活しています。盲ろう者が社会とかわかり、意思疎通を図ることの楽しさについて登壇者二人が語り合い、参加者と交流します。

※ セッション、セミナーのプログラム詳細は公式ウェブサイトをご覧ください。

参加申込・その他のプログラム等は **公式ウェブサイト** から

URL: <https://creativewell.rekibun.or.jp/creativewell-conference/2025.html>



だれもが文化でつながるプロジェクト

### クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョーについて

芸術文化の力や都立文化施設の資源を活用し、高齢者、障害者、外国人、乳幼児等を対象者に「アクセシビリティ向上」と「鑑賞・創作・発表機会の拡大」に取り組むプロジェクト。都立文化施設の情報アクセシビリティ環境を整備し、障害や年齢等を問わずあらゆる人が芸術文化を享受できるプログラムを実施しています。



オールウェルカム  
**TOKYO**

～ 感動と共感が、東京を、未来を、変えていく。みんなでつなげるサポートの輪。～  
オールウェルカムTOKYOは、芸術文化を中心に、アクセシビリティ向上に取り組むみなさまとともに、障害の有無や、言語・文化の違いを超えて、もっとだれもが楽しめる東京を目指すキャンペーンです。  
【特設サイト】 <https://awt.rekibun.or.jp/>